大森藤ノ 特別書き下ろし

『ダンまち』×『エリスの聖杯』

クロスオーバーSS

「フレイヤ様はエリスの聖杯を応援しています」

イラスト：ニリツ

フレイヤ様はエリスの聖杯を応援しています

「ふぅ……」
天を衝く白亜の巨塔、その最上階。
最高級部屋と見紛う室内で、麗しの女神は疲労感を伴った、けれど心地良さそうな溜息をたっぷりと吐いた。
「オッタル。この本の続きを予約してきてちょうだい」
「かしこまりました」
女神フレイヤの従者、猪の獣人オッタルは、差し出された一冊の本を丁重に受け取った。
分厚く、装丁がしっかりとした本である。文庫本などとは訳が違う。
文字は見慣れないもので、オッタルには題名も中身も読むことはできなかった。
「異国の書物ですか？　続きを押さえておくとは、よほど気に入られたようですね」
「別に？　ありきたりな物語よ。ええ、神である私からすれば見飽きてしまったくらい」
「どのような話なのですか？」
そうねぇ、と天鵞絨の椅子に深く座り直すフレイヤは目を瞑り、億劫そうに口を開き、
「地味な子爵令嬢に希代の悪女の亡霊が取り憑くという所謂『悪役令嬢もの』と呼べるジャンルなのだけれどこれ自体はどこにでもあるし憑依というギミックも使い古されているわ事実私も読み始めた時は『あぁちょっと変化球使ってきたのね』くらいの認識だったけれど間違っていたわ序盤の『さまぁ』なんて序の口の序の口この物語の最大の引力は『謎』なの『謎』が読み手の原動力となって物語の先を追いかけさせソレはいつしかページをめくる快感に変わるわ神が忘れていた童心の読書体験ね具体的なネタバレは避けるけれど物語の前半で題名が回収された瞬間不覚にも鳥肌が立ったわえぇ認めてあげるこの作者の掌の上で転がされていたってでもその屈辱すら次は何をブチかましてくるのかという期待感に変わるのだけれどまぁ突っ込みどころもあるのよ『キリキ・キリクク』ってなんやねんとか登場人物がとにかく多過ぎるわとかまぁでも前者は逆に謎単語すぎて愛おしく思えるし後者は前のページに戻ってこのキャラはどんなキャラだったかしらと確かめる度に愛着が湧くわキャラ造形としては主人公と悪女は文句なし私個人としては死神閣下より正直ハムみたいなキャラの方がクスリとしてしまうわねあぁ後これは私個人の予想であって決して神託ではないけれどスカーレットの父親にまつわる話は絶対エモのエモのエモが約束されてる気がするのあとそれから」
「どハマリしたのですね」
息継ぎなしで説明を始めた主に、オッタルは全てを悟った眼差しをした。
「ちなみに続刊は二〇二〇年三月十五日頃に発売する気がするわ」
「チェック済みなのですね」

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか
大森藤ノ
illustlation ニリツ
キャラクター原案
ヤスダスズヒト
ファミリアクロニクル episode フレイヤ
GA文庫より
2019年12月15日頃発売予定！